

令和8年度 剣道中央講習会 茨城県伝達講習会

【講義】

・全日本選手権大会

観客動員数 令和8年度は10,000人超にしたい。

・国際大会

ミラノ大会は完全優勝を果たす事が出来た。

今年5月にアジアオセアニア剣道連盟が創設される。初代会長は蒔田副会長が就任予定。

併せてアジアオセアニア大会が23の国と地域で開催を予定。

個人戦は、3段以下と無制限の2種類。(3段以下は、日本、韓国は出場させない(レベルが高い))

会場は、東京武道館。

・世界選手権大会

令和9年度、第20回記念大会が予定されている。開催地は、東京都内。

資料には「日本武道館」と記載されているが、正式発表までは極秘事項である。

・審判員講習会の開催

全日本選手権大会の審判員は範士八段が該当するが、研究会、勉強会を実施。今後も継続予定。

・剣道人口拡大プロジェクト

最大目的「正しい普及と後継者育成」。

財務 3年に1度の世界選手権派遣費用や大会運営等を勘案すると、余剰金必要。

当面の対応は「寄付」で賄う事を考えている。

「世界選手権応援クラブ」の会員拡大、募集を進める。年会費は5,000円。

・コンプライアンス

ハラスメントや暴力で剣道の価値をキズ付けられたくない。

単に批判を受ける事を防止するだけではなく、

⇒不祥事が発生⇒剣道が社会から敬遠⇒人気下落⇒競技人口減少⇒事業縮小

※全剣連は強い決意を持って不祥事防止に取り組む。

・剣道人口の減少 (高体連資料)

高校生の人口:平成15年(2003年)381万人 ⇒ 令和6年(2024年)292万人 ▲23.4%

高校剣道部員:5.9万人 ⇒ 3.2万人 ▲46%

高校弓道部員:6.5万人 ⇒ 6.4万人 ▲1.7%

※村上もとか氏(「六三四の剣」作家)を初代全剣連アンバサダーに委嘱。

・不祥事

増加傾向にあり、実名告発も増加。

令和2年 14件(8件) ⇒ 令和7年 55件(38件) ()は実名告発。

例:剣連役員が、気に入らない人間を攻める場面がある。

「全剣連における倫理に関するガイドライン」が整理されている事を知らない分からない人が多い。

・行事日程 日程表の通り

都道府県大会:和歌山開催(2年連続)大阪が施設改修で使用できない。

都道府県大会監督資格:社会体育指導員資格を有している事。※国スポと同様にした。

・剣道未来プロジェクト(KFP)報告

人口減少問題:出生者数は10年間で約30%減少。予測より15年早いペースで進んでいる。

高校生全生徒数:平成26年 352万人 ⇒ 令和6年 320万人 ▲9% (文科省調べ)

高校剣道部員:4.6万人 ⇒ 3.2万人 ▲30% (全国高体連剣道専門部統計)

KFP設置の背景・組織特性 剣道人口減少という構造課題

⇒従来型を拡大した発想による組織作りが必要

⇒人口減少問題に特化したPJTとしてKFPが組織された

意識調査(小中高校生対象):

剣道を始めた理由 自分の意志で剣道を始めた者が4割強

剣道以外の習い事 5割強が他の習い事にも取り組んでいる

剣道を続ける理由 技術の向上と試合に勝つことがメイン、友人関係も重要な要素

広報関係事業:

シネアドの実施 劇場版「鬼滅の刃」上映前に15秒の映画館用CMを放映した

剣道未来プロジェクトが外部プロジェクトをサポートする制度を発足

⇒内容に応じて「後援」と「応援」の2種類で認定

・指導法

指導者の在り方について

竹刀を道具にしていないか。竹刀は竹刀なので、指導棒ではない。

指導時には竹刀の持ち方を「下げ刀」の形で、歩く時も同様に。

※指導時、「構えた形」等では両手で持つが、左手に納めるまで、片手で持たない事。

木刀は「右手」、竹刀は「左手」で保持する事。

※指導者は、常に見られている事を忘れてはならない。意識する事。

鍰競り合い

左拳は常に中心に、右拳は多少ズレる場合もある。

一朝一夕で身に付く事ではないので、日々の稽古で指導する事。

逆交差になる事を見かけるが、拳を中心に取り、お互いに中心を取り合えば逆交差にはならない。

鍰競り合いからの暴力行為の排除が求められる。

剣道の重大事故と救急対応

突き技による重大事故において、異常があると感じた時は、無理をせず、早期の早い段階で、病院等で診察を受けさせる事。

脳震盪等を疑う状況があった際は、必ず家族に伝達する事。

※稽古中に意識を失った際は、面と胴を必ず外す事。外し方は、実践にて別途。

AEDによる対応や、相手が女性でも遠慮無く実施する事。

・残心について

残心とは、打突した後も油断のない気構え、身構えである。

「打てばよい」のではなく、打突後の身構え、気位、心構えが大切、しっかり指導の事。

・木刀による剣道基本技指導法

構え、横手、一足一刀の間合い、打突、刃筋、物打ち、一拍子、足さばき、掛け声、残心を理解させる事。

基本9について、右胴の打ち落としでは、確実に直下に打ち落とす事。

原本は、「斜め右下方に打ち落とし」、講習会資料は、「斜め右下方方向に打ち落とし」と記載。

・日本剣道形

「講習会資料」と「日本剣道形解説書」を熟読していただき、勉強する事。

⇒記載振りが一部違うのではないかとと思われる様な部分がある。

共通理解について

中段の構えの延長：棟の鰐元と切先を直線で結んだ延長を言う。

（木刀による剣道基本技稽古法の指導書のみ記載されている。）

太刀一本目：打ち太刀の剣先高さは、下段程度。

（解説書では下段より低く、講習会資料では・・・）

打ち太刀の構え：左目から拳一つ空けた所に左拳が来るように。

仕太刀の構え：額の真ん中から拳一つ空けた所に左拳が来るように。

太刀四本目：双方切り結ぶ位置は記載されていない。

切り結びの位置は、およそ刀身の中央部、剣先は正面の高さと統一する。

切り結んだ後に、間合いが近い場合は打ち太刀が引いて良いという指導。

⇒切り結び、合中段、入れ突きまでの動作を意識して前に進めば、打ち太刀が下がる事は無いという意識を持つ事。

仕太刀の構え：相手から木刀が見えない、切先は膝より下になる様構える事。

太刀五本目：仕太刀の構えは、刃先はやや斜め下に向ける。

太刀六本目：仕太刀がすりあげ小手を打った時、間合いが近くなった場合は、その間合いによつては、左足を引きつけなくとも踏み出したものと解釈する。

太刀七本目：右胴を打つ際、右足は横向きに開くのではなく、正面に向けた状態で右前に開く事。

三段以下は、右足を開いた際に太刀を振り上げ、左足を踏み出すと同時に右胴を打つことを指導して、練度を高めさせる。

熟練者は、左足を踏み出すと同時に、振り上げ振り下ろしを一拍子で行わせるよう指導する事。仕太刀は、最後まで相手から目を逸らさない事。

・審判規則

第27条（有効打突の取り消し）

有効打突を取り消す場合、主審は合議前の旗の表示をしつつ、取り消す部位の宣告をしてから、取り消しの宣告と旗表示をする。

運営要領、中止要請

試合者が、試合の中止を要請する場合、手を上げ、かつ主審に向かって「タイム」を発生する。

剣道試合の更なる発展を目指して

残心を示さない、残心の示し方が正しくない。⇒総合的に見て判断。

打突が当たった瞬間、旗を上げるのではなく、残心までしっかり判断する事。

※過去の試合で、大將が一本取られなければチームが勝ちの試合にて、その大將が、ルール上特別反則行為をしていた訳では無いが、明らかに逃げの姿勢で試合を行っていた。

⇒合議の上、反則を取った。香田先生。総合的に判断した。

二刀の審判

小刀での有効打突になるには、大刀で相手の大刀を制している場合で、小刀で打った肘が良く伸び、十分な打ちで条件を満たしている事を必要条件とする。

鰐競り合いでの小刀打突は、原則として有効としない。

二刀で試合に出場し、替えの竹刀が無い場合は負け。一刀用の竹刀は持っていたても、二刀で出場しているのだから、一刀用は使う事は出来ない。